

## 論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Optimal protein intake during pregnancy for reducing the risk of fetal growth restriction: a secondary analysis of the Japanese Environment and Children's Study

和文タイトル: 胎内発育不全を予防するために最適な妊娠中のタンパク摂取

ユニットセンター(UC)等名: 福岡UC

サブユニットセンター(SUC)名: 九州大学SUC

発表雑誌名: British Journal Nutrition

年: 2018 月: 12 巻: 120 頁: 1432-1440

筆頭著者名: 森崎菜穂

所属UC名: 福岡UC

目的:

非線形であることが過去研究から推測される、妊娠中の3大栄養素(タンパク質・脂質・炭水化物)の摂取割合と胎児の発育の関係を調べた。

方法:

エコチル調査参加の単胎を妊娠した女性91,367名に対して、食事質問紙調査により評価したカロリー摂取の3大栄養素(タンパク質・脂質・炭水化物)の割合と出生体重および胎児発育の関係を、3次スプラインモデルを用いて調べた。

結果:

妊娠前から妊娠初期、妊娠中の食事のいずれにおいても、食事中のタンパク質摂取と出生体重および胎児発育の関係は逆U字で、カロリー摂取の12%がタンパク質である女性で最も大きかった。また、妊娠前から妊娠初期の食事においては、カロリー摂取の12%がタンパク質、25%が脂質、61%が炭水化物である場合が最も出生体重および胎児発育が大きかった。

考察:(研究の限界を含める)

妊娠中のタンパク質摂取量と胎児発育の関係は非線形である可能性が高く、胎内発育不全を防ぐには全ての栄養素において必要量を満たしているバランスのよい食事が必要だと考えられる。

結論:

妊娠中のタンパク質摂取量と胎児発育の関係は非線形である可能性が高く、胎内発育不全を防ぐには全ての栄養素において必要量を満たしているバランスのよい食事が必要だと考えられる。

---